

# 会員のば

## 休みの日には鷗外巡礼

札幌市医師会  
札幌宮の沢病院

### 笹岡 彰一

山の日振替休日の翌日がお盆休みになりました。平日に休めます。数年前、都営地下鉄大江戸線若松河田駅から徒歩5分の国立国際医療研究センター病院には土曜外来休館のため引き返したことがあります。今回は大丈夫。広い受付空間を過ぎてエスカレーターホール右手奥は喫茶店です。この横に資料展示室のドアが開いていました。入ってすぐに古い机があります。森鷗外が使っていたそうです<sup>1)</sup>。

国立国際医療研究センター病院の前身は陸軍病院で軍医学校が併設されていました。明治14年、鷗外はこの病院に勤務したのちに4年間ドイツ留学をしました。その後、明治末期に陸軍軍医学校長を勤めていた時に使用していた机です。大きな机です。両袖の引き出しと、机上の棚に重厚な風格を感じます。資料室には病院の沿革などが記され、人間ドック発祥の病院であることも知りました。

その翌月は夏休み。バスはテゲル空港からベルリン中央駅を経由して、旧東独のロベルト・コッホ広場へ行きます。東西ドイツ再統一によりフンボルト大学医学部付属病院を含めて統合再編した欧州最大の大学病院シャリテCharitéに近く、ここの医学史博物館ではウィルヒョウの病理標本が圧巻です。ロベルト・コッホ広場から南、鉄道高架の手前の建物2階に森鷗外記念館があります。このビルの壁に大きく書かれた【鷗外】の文字は、鉄道に乗るとよく見えます。記念館は鷗外がフンボルト大学（当時はフリードリヒ・ヴィルヘルム大学、通称ベルリン大学）留学中に下宿していた場所であり、鷗外の部屋が再現されています。ここはフンボルト大学日本学科の所属機関であり、鷗外に関係する多彩で膨大な蔵書を閲覧することもできます。記念館からさらに南へ10分ほど歩けば、ブランデンブルク門です。

帰国結婚後の住宅が上野公園の西に隣接する水月ホテル鷗外荘に保存されています。「舞姫」の時代です。北千住にあった実家の橋井堂森医院は残っていませんが、近くに小説「渋江抽斎」に登場する名

倉医院が現存し、江戸時代からの門が残されています。さらに鷗外は2回来道しました<sup>2)</sup>。日記「北遊記」によれば、大正3年の来道で偕行社に2泊し、衛戍病院（国立病院機構旭川医療センター）などを視察しました。偕行社は旭川市彫刻美術館として公開されています。道内の文学館には鷗外関連の常設展示はなさそうですし、鷗外記念室なんて併設されればなんて妄想しました。

1) 國土典宏. 森鷗外とNCGM国立国際医療センター. 医事新報 No. 4941, 86-87, 2019.

2) 松木明知. 森鷗外と「北遊日乗」「北遊記」. 日本医学雑誌 55: 104-107, 2009.



軍医学校長時代の鷗外の机  
(国立国際医療研究センター病院資料室。2019年8月)



鷗外留学中の下宿再現  
(ベルリン森鷗外記念館。2019年9月)  
壁にデスマスクが飾られ、後ろにはベッドや洗面がある